

摘出前立腺重量とロボット支援前立腺全摘除術後断端陽性率および 部位別断端陽性の関連に関する後方視的検討

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

前立腺の大きさと、ロボット支援手術（前立腺全摘除術）後のがんが取り切れずに残る「断端陽性」との関係については、これまでにさまざまな報告があります。特に海外では、前立腺が小さいほど断端陽性が多いという傾向（small prostate paradox）が指摘されていますが、日本の単一施設で詳しく調べた研究は多くありません。本研究では、当院で2013年から2025年までに手術を受けた方の診療記録や病理結果を用いて、前立腺の重さと断端陽性の頻度、さらに前立腺内のどの部位に残りやすいかを解析します。これにより、手術の安全性向上や再発予測に役立つ知見を得ることを目指しています。

研究の対象となる方

2013年4月1日から2025年12月31日までに当院でロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術を受けられた方

使用する試料・情報

年齢、手術日、摘出前立腺重量、初診PSA、生検Gleason score、病理T因子、断端陽性の有無、断端陽性部位（apex、dorsal/base、lateral、posterior）、必要に応じて術者情報および周術期情報など
使用開始予定日：2026年6月11日

研究予定期間

2026年6月11日～2027年6月30日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。氏名や患者IDなどの個人を特定できる情報を削除し、研究用IDを付して管理します。患者IDと研究用IDの対応表は適切に管理し、外部に漏れないよう取り扱います。研究成果を学会等で発表する予定ですが、個人が特定されることはありません。

[研究の情報管理責任者] 泌尿器科 元島 崇信

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止するとともに、収集した情報等も可能な限り削除します。既に研究成果の公表後などで削除が困難な場合は、その旨をご説明します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係がなく、ご協力いただけない場合も不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 泌尿器科 元島崇信

住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000（代表）